令和２年度　事業報告書

令和２年４月１日～令和３年３月 31 日

Ⅰ　全体事業概要

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症一色の１年となりました。一方で台風の上陸はなかったものの全国各地でゲリラ豪雨による被害が発生し、梅雨明けは、平年より遅くなりました。管内では豪雨などによる大きな被害はなかったものの、今後も続く異常気象や新型コロナウイルス感染症の影響がどのようになっていくか心配なところである。

農地利用集積事業では、令和元年５月に「農地中間管理事業に関する法律」が改正され、公社で行っていた農地利用集積円滑化事業は、農地中間管理事業に統合一体化された。これにより、今年度より本格的に農地中間管理事業への移行事務を行った。

特に人･農地プランの実質化についての話し合いを７地区で開催し､新城地区１地区、作手地区３地区で、「地域まるっと中間管理事業方式」による取組みを実施した。

また、今年度新規の農地や円滑化事業による満期を迎えた農地等についても、農地中間管理事業への移行を行った。

農作業受委託事業ではほぼ例年並みの受託作業を行ったが、農業機械更新に課題のある小規模農家や､世襲農地の維持管理を尊重する小規模農家からの受託業務を継続した。

担い手育成研修事業では、農業次世代人材育成支援事業による４名の研修生を受け入れた。

新たな担い手育成支援においては、新型コロナウイルス感染症の影響で開催が難しい中､新農業人フェアや新城市単独のアグリチャレンジ相談会､メディア活用による広報、現地説明会等を開催した。これにより次年度はトマト２名とイチゴ１名が第９期生として決定した。

チャレンジ農家としての期待を担う農業塾は、７期生７名の塾生が９月に１年間の課程を修了し、9 月から新たに第８期生 10 名を受入れ研修を実施している。

種苗等生産事業の菌床ブロック生産事業では、生産農家からの需要に応じ、菌床ブロック製造の増加が図られた。また国の補助事業により全自動接種機を農協のリース事業で導入し、作業の効率化、栽培農家での作業の軽減が図られた。

収益事業では、夏の猛暑ではあったが順調に生育し、自然薯栽培では例年みられる腐りが少なく、全般的に良好な収穫状況であった。また、菌床シイタケ栽培についても、全般的に良好な収穫状況となった。

Ⅱ　事業内容

1.農地利用集積円滑化事業

①　農地中間管理事業の改正を受けて、農地利用集積円滑化事業から農地中間管理事業へ移行したため、保有面積は減少した。今後も、満期を迎える農地について、農地中間管理事業へ移行していく。

単位：㎡

内　訳	地目	令和２年度保有面積	令和元年度保有面積
賃貸借	田	793,664	1,986,063
	畑	39,779	62,601
	その他	13,686	13,686
	小計	847,129	2,062,350
使用貸借	田	246,946	631,304
	畑	10,034	28,396
	その他	0	126
	小計	256,980	659,826
合　計		1,104,109	2,722,176

②所有者代理事業により売却希望相談に随時対応し､3件7筆の売買代理契約を行った。

面積単位：㎡

種別	買入		売渡		未処分	
	筆数	面積	筆数	面積	件数	面積
田	7	10,102	7	10,102		
畑						
その他						
農地合計	7	10,102	7	10,102		

・作手清岳　　水田(2筆)1,976㎡
　　250,000円(126千円/10a)
・作手清岳　　水田(2筆)4,021㎡
　　500,000円（124千円/10a)
・作手鴨ケ谷　水田(3筆)4,105㎡
　　615,000円（149千円/10a)

2.農地中間管理機構業務受託事業

①　農地中間管理事業の改正法を受けて改正された農地中間管理事業への移行及び人・農地プランの実質化についての話し合いを７地区開催し、新城地区１地区、作手地区３地区で、「地域まるっと中間管理事業方式」による取組みを実施した。

　また、今年度新規の農地や円滑化事業による満期を迎えた農地等についても、農地中間管理事業への移行を行った。

農地中間管理への移行取組み

「地域まるっと中間管理事業方式」による取組み

４地区（吉水、和田、北畑、菅沼）　641,528㎡

新規及び円滑化からの中間管理事業への移行面積　844,147㎡

計1,485,675㎡

②地域集積協力金交付地区

６地区（上平井、吉水、和田、北畑、中河内、菅沼）

３.地域農業者の支援に関する事業

（１）農作業受委託事業

受委託事業については、ほぼ例年並みの受託作業を行ったが、ここ数年続く長雨による影響で作業不能となったほ場もあり、軟弱ほ場の管理者には中干期の徹底や早期の水切り対策を依頼した。

作業受託内容	R2 年度実績	R1 年度実績	公社	委託
耕起	3.7ha	4.5ha	○	○
代掻き	2.6ha	3.9ha	○	○
田植え	5.9ha	4.9ha	○	○
育苗	1,145 枚	1,368 枚		○
畝立て	0.9a	0.8a	○	
刈り取り	12.9ha	13.5ha	○	○
採種刈り取り	19.3ha	17.9ha	○	○
乾燥調整	1,756 俵	1,459 俵		○
堆肥散布	9.6ha	6.9ha	○	

（２）担い手農家の育成・新規就農者受入れに関する事業

①　「新・農業人フェア」東京１回、「マイナビ就農フェスト」名古屋１回、「新城市アグリチャレンジ」岡崎１回、「現地説明会」2 回を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響で開催が難しい中、40 名とオンラインや面談を実施、他に動画を撮影し就農サイトでＰＲする等して勧誘活動を実施した。

※　参考データ

イベント名称	会場名	開催日	来場者数	面談人数	備考
新農業人フェア	東京	R2.9.27	1,209	4	オンライン
ﾏｲﾅﾋﾞ就農フェスト	名古屋	R3.3.14	100	12	
新城市アグリチャレンジ	岡崎	R2.7.5	10	10	事前申込
現地説明会	新城	R2.11.7	6	6	
現地説明会	作手	R2.10.11	8	8	
合　計			1,333	40	

②　農業次世代人材育成支援事業による４名の研修生を受入れた。内訳は第７期生としてイチゴ就農専攻者２名が、７月・9 月から国の農山漁村振興交付金農協の施設リース事業により就農を開始した。また第８期生としては、昨年の 4 月からトマト就農専攻者１名、ホウレンソウ就農専攻者１名を受入れ、、本年４月から国の農山漁村振興交付金農協の施設リース事業により就農を開始した。

③　令和 3 年度の新規研修生見込者は、トマト２名（４月）、イチゴ１名（７月予定）の３名を公社研修９期生として登録決定した。

④　農業塾では第 7 期生 8 名を受入れ、農業技術や知識のない受講生に対して農業経営への関心・意識の向上を図るとともに、農地の有効利用や直売

所の販売量や品目の充実化を目指し、多品種の栽培品目にチャレンジし令和２年９月１年間の農業実習を７名が修了した。同年９月からは、引き続き第８期生10名を受入れ、令和３年９月まで露地野菜を中心に栽培技術実習を実施中。

⑤　農業インターンシップについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じなければならず、体験農家での対応が困難であったことから、受入がなかった。

４.農林産物の種苗等の生産・供給に関する事業

（１）自然薯むかご受託栽培

愛知県園芸振興基金協会受託の自然薯原々種むかご栽培は現地指導会などにより栽培管理は順調であったが７月の長雨、夏の猛暑により、心配されたが供給数量95,600粒以上に対し108,500粒となり、P-16及び稲武-2号ともに目標数量を納品することができた。

（２）自然薯一本種芋受注栽培

管内生産農家向け一本種芋栽培は、規格サイズ4,430本の供給となり、予約数量4,650本に対して220本不足ではあるが芽出し芋で代替した。

（３）菌床しいたけ菌床ブロック受注生産

生産農家からの需要に応じて169,142菌床の製造を行った。

また､国の補助事業により全自動接種機を農協のリース事業で導入した｡これは、菌床ブロックの袋の閉じ口をキャップ式から熱圧着シール式に変更し、全自動により接種を行うもので、作業の効率化、栽培農家での作業の軽減が図られた。

品目	R2年度実績	R1年度実績
(1)愛知県園芸振興基金協会むかご受託栽培	108,500粒	109,000粒
(2)自然薯一本種芋受注栽培（*30ｇ～100ｇ）	4,430本	4,572本
(3)菌床しいたけ菌床ブロック受注生産	169,142菌床	161,832菌床

５.都市農村交流促進事業

（１）トウモロコシもぎ取り体験

夏休み期間中の作手地区の風物詩となり、体験需要も多いことから昨年度と同様に近隣遊休農地を確保し作付け本数8,000本を継続したが、７月の長雨での不作とコロナウイルス感染症の拡大に伴い体験者は激減となり、体験は約90名（前年370名）の収穫体験者を迎えた。

（２）ＪＡまつり

ＪＡまつりの人気コーナー『しいたけ詰放題』を計画していたが、コロナウイルス感染症の拡大に伴いイベントが中止となった。

６.農林産物生産事業

（１）自然薯栽培事業

自然薯栽培事業においては、夏の猛暑ではあったが順調に生育し、例年みられる腐りが少なく、重量や形状についても若干細く長いものが見受けられるが全般的に良好な収穫状況であった。総収穫量 467ｋｇ　（前年 434ｋｇ）

（２）しいたけ栽培事業

しいたけ栽培事業では、公社供給種苗の検証栽培として夏出し 14,587 菌床、秋出し 22,100 菌床の栽培実証を行った。今年度は、過去最高の出荷状況であった。

総出荷量（ﾊﾟｯｹｰｼﾞｾﾝﾀｰ分のみ）　28,530ｋｇ（前年 26,751ｋｇ）

７.その他公社の目的達成に必要な事業

（１）イベント用ポップコーン種の栽培

面積　2ａ

（２）景観作物の栽培

菜の花栽培　15ａ

（３）作手小学校農業指導

小学生への稲作体験指導を行い、食べ物の生産過程を知るとともに感謝する食育を支援した。